

やすらぎだより

3
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第153号

「 9年前の構想 」

施設長 植田 誠



9年前の春、一つの構想を提案した。

「社会福祉法人として、外部に向けた発表会を行いたい」と。県内で先駆け実施されていたある法人さんのその取組みに、羨望を抱きそしてヒントをいただき、翌年の平成22年3月26日やすらぎ会研究発表会はスタートした。

当初は施設や事業所単位での取組み紹介がメインであった。40日後に控えたグループホームの開設を念頭に置きながら、研究的な発表というより宣伝に趣を置いた形であったと言える。今も変わらずお借りしている天理市文化センターの、読めない空席に気を揉んでいたのは今も当時も変わらない。

副題は気に入った。‘いつまでも喜びを感じる人でありたい’ 勿論、準備にあたった実行委員の方が作ったこの言葉、深みに乏しい当時の発表内容を補うに余りある名題と感じた。

- H22 「いつまでも喜びを感じる人でありたい」 5発表2紹介
- H23 「生活を支えるというコト」 3発表、ポスターセッション
- H24 「看取り」とは何か ～その人らしい最期への支援を考える～
- H25 「食べる力」～楽しく食をするために～
- H26 「認知症サポーター養成講座」～その人らしく生き、共に支えあうために～
- H27 「住まいについて」～その人らしい暮らしを考える～
- H28 「今、地域に目を向けて」～地域の声に応えるやすらぎ会の役割を考える～
- H29 「寄り添う心のケア」～家族のメンタルをどのように支えるか～
- H30 「認知症ケアワーキング」～認知症の人を知ること、その先にあるもの～

外と内に向けて発信する機会、その目的は不変である。研究発表会という名に相応しい内容かどうかはいささか疑問だが、毎年企画と準備を行ってくれる実行委員の想いは熱い。

第9回目を迎える今回は3月17日午後2時に開催する。お一人でも多くの方に是非ご来場いただき、その目で何卒確かめていただきたい。回を重ねた僅かな成長と、実行委員長長の熱き思いを。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 低所得高齢者等住まい・生活支援事業